

令和6年度 入学式 式辞

うららかな春の陽射しが出雲平野に優しく注ぎ、木々や草花に躍動感と生命力を感じる今日の良き日に、令和6年度島根県立出雲農林高等学校入学式を挙げていただけますことは、誠に喜びに堪えないところでございます。ただいま入学を許可しました新入生115名の皆さん、保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。皆さんの本校への入学を私たち教職員並びに在校生一同、心から歓迎いたします。

本日ご多用の中、ご臨席を賜りました耕魂会会長米山広志様、PTA会長小玉ともみ様をはじめ来賓の皆様方に新入生の入学を祝福いただきますことを、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、本校は、昭和8年に島根県立今市農業学校として創立され、昨年度創立90周年の節目の年を迎えた伝統ある農業高校であります。この間、「耕魂 育命」を校訓とし、本校では、生命を育て、自らの魂を耕す「魂の教育」を旨としております。少子高齢化、国際化、環境問題、そして地方創生など様々な課題を抱え、刻々と変わる社会情勢の中、変わらず大切なものは、「生命に対する畏敬の念」「自然に対する感謝の気持ち」であろうと思います。本校では常に生命と向き合い、豊かな心の醸成に努めております。

また、本校は県内唯一の農業専科の高等学校であることから、農業教育のリーディングスクールであります。地域農業を支える人材、農業教育を支える人材等スペシャリストの育成が、本校に課せられた大きなミッションであると考えております。そうした本校に皆さんを迎えることができ、とてもうれしく思います。

今、入学生のみなさんは、夢と希望を胸に、初めての高校生活に大いに期待をしていることと思います。出雲農林高校は、そんな皆さんの夢と希望を叶える学校を目指しております。

「見つけよう、自分の力の可能性」本校は、みなさんの可能性を信じ、基礎基本の徹底、専門性の向上、実践力の育成を図るため、様々な学びの機会を提供します。

しかし、全て学校任せでは、みなさんの夢や希望は叶いません。そこで、みなさんに、入学に当たり、本校の生徒が実践している出雲農林高校「耕魂五箇条」を紹介し、みなさんにも実践していただきたいと思っております。

一つ目は、「汗をかく」ということです。楽をして手に入れたものは、すぐに失ってしまいます。確かな力を手に入れたければ、汗をかくしかありません。今日の汗は、明日の喜びに確実に繋がっています。

二つ目は、「常識を学ぶ」ということです。世の中の一般常識はもとより、学校で学ぶ基本的な知識や技術をしっかり身に付けることは、すべてのスタートです。

三つ目は、「経験を積む」ということです。ICT機器の普及によりバーチャルな世界が広がり、本物に触れる機会が少なくなる中で、現実の世界で本物に触れながら経験を積むことの意義は、今、非常に大きいと考えています。

四つ目は、「常識を疑う」ということです。常識だから仕方がないと思った瞬間にもう進歩はありません。既成の概念にとらわれることなく、創造的な発想をしてほしいと願っています。

五つ目は、「チャレンジする」ということです。この三年間で、学習においても、部活動においても、また、学校行事においても、失敗を恐れず果敢にチャレンジをしてください。

この「耕魂五箇条」を実践することにより、まだ見ぬ新しい自分に出会えることは、この上ない驚きと喜びであるに違いありません。

最後に保護者の皆様へお願いです。お子様の成長のためには保護者の皆さまと学校がお互いに連携しながら、それぞれの役割を果たしていくことが大切となります。どうか保護者の皆様におかれましても温かいご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

これからの時代を担っていく新入生の皆さんが、今日の感激を胸に刻み、心身とも健康で明るく、目標に向かって学校生活を送れますよう心よりお祈りしまして、式辞といたします。

令和6年4月9日

島根県立出雲農林高等学校 校長 黒崎 千春